

広報

ただみ

9

2017 月号

No. 568
平成29年9月10日

未来へつなぐ

今月の表紙

今月の表紙は、7月29～30日に開催された「第7回日本列島横断(洋から海へ)R289フルコース踏破」事業で、町内を自転車で力走する高校生の皆さんです。

当日町内では、広報無線により「高校生が明和振興センターを出発しました」と放送が流れると、沿道には沢山の町民が応援に駆け付け、生徒たちに「頑張れ～」などと多くの声援を贈っていました。

生徒たちは、みんなの応援を背にして、ゴールの新潟県庁を目指しました。

(関連記事:P2～5)

<特集>

国道289号「八十里越」の町の取り組み…… 2～5

平成29年度只見町成人式…………… 6～7

《News&flash》

沼ノ平総合学術調査を開始

米焼耐ねっか「シルバーメダル」受賞 ほか… 8～11

《町の話》

盆踊り大会開催、朝日盆フェス新たに

会津只見考古館25周年まつり ほか… 12～13

国道289号「八十里越」の整備完了2023年度を目標

早期開通を期待する只見町の取り組み



▲（平成27年撮影）入叶津地内の工事土砂により出来上がる大麻平のボックスカルバート

国道289号は、昭和45年に国道として認定され、新潟県新潟市を起点として福島県いわき市に至る総延長30

4・4キロの道路です。このうち新潟県三条市（旧下田村）から只見町に至る県境部分が

いわゆる「八十里越」と呼ばれ、現在工事のため不通区間となっております。早期開通を願う声が多いこの区間は、

完成まで「あと10年」と言われ続けて既に40年以上が経過しています。

このような中、三条市内に救命救急センターを併設した県中央基幹病院が2023年度に開院する予定となっております。

福島県と新潟県では、この不通区間について同時期の開通を目指すとして一部で報じられました。

今回の特集では、現在の国道289号八十里越の工事区

間の状況と、早期開通を願う町の取り組みについてご紹介いたします。

国道289号八十里越の工事区間は、「表1」のとおり三条市塩野渚字御所から只見町大字入叶津に至る総延長20・8キロで、国土交通省と福島県、新潟県がそれぞれ工事を施工しています。

工事区間内にはトンネル14本、橋梁16本が計画され整備が進められていますが、この区間は豪雪地帯のため、工事は積雪のない半年間のみに限られ段階的に進められておりますが、平成23年7月の新潟・福島豪雨では、第7橋梁の橋脚が流されるなど工事は難航しています。

7月31日、「国道（289号）八十里越地点開発促進期成同盟会」の総会が開催され、国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所や福島・新潟両県の担当者より、次のとおり国道289号八十里越区間の事業概要の説明と、工事の進捗率などが報告されました。

国土交通省の施工区間（権限代行区間）約11・8キロ

工事進捗率は3月末現在で約79%であり、日本国内でもトップクラスの高さを誇る80m超の橋脚を備える第5橋梁（新潟県側）に着手している。

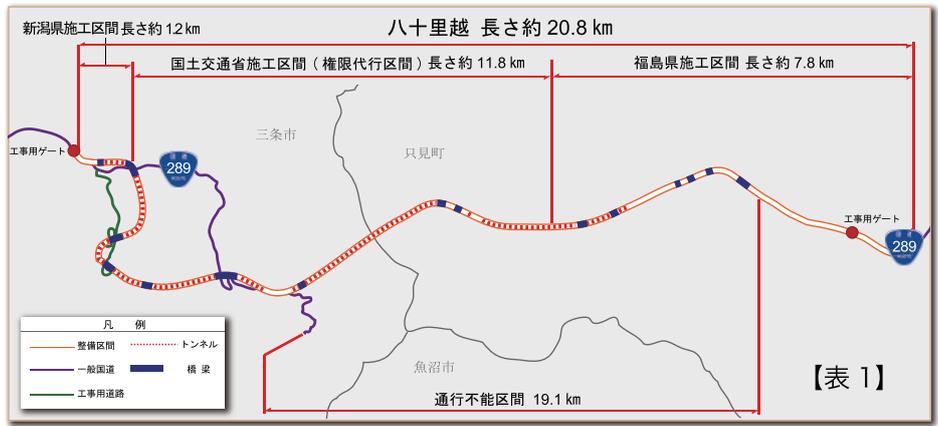
福島県の施工区間

約7・8キロ

平成29年度末までにスノーシエッド工、橋梁工、環境調査などを行い、工事進捗率87%を目指す。



▲八十里越古道の見学



【表1】



▲（平成26年撮影）新潟県側にある4号橋梁



▲（上/下）トンネル工事と橋梁工事の様子

●新潟県の施工区間

約1・2キロ

工事進捗率は89%となっている。残事業が舗装工、雪崩予防柵、トンネル付属施設などとなっている。

③歴史と自然環境

八十里越は8里（32キロ）ほどの山道で、福島県では最も長い峠道となっており、平成8年11月1日には文化庁から「歴史の道百選」に選定されました。八十里越は1里が10里とも思えるほど険しい道であったため、その名が付けられたといわれています。新潟県との交易にとって重要

な峠であり、幕末から戊辰戦争時にかけて越後長岡藩の家老・河井継之助が越えた峠としても知られています。

また、平成26年に「只見ユネスコエコパーク」に登録となったことから、この国道289号八十里越は「越後三山只見国定公園」など豊かな自然環境の中に位置するため、道路建設にあたっては自然環境への影響を把握するため「八十里越道路環境検討委員会」を設立し、学識経験者の指導・助言を得ながら慎重に調査や工事が進められています。

―早期開通のための

取り組み―

①八十里越道路暫定の

活用検討懇談会

町や三条市などでは、開通後の効果や利便性を実感してもらい地域間交流を深める目的で、工事区間を通り抜ける交流事業を展開しています。この事業は、町や三条市の他、

国、新潟県、福島県などで組織する「八十里越道路暫定の活用検討懇談会」の中で通り抜け事業の選定を行っています。この懇談会の中で選定された事業以外は工事区間を通

り抜けることができず、その中で只見町では次の事業を実施・支援しております。

②R289フルコース踏破

この国道289号の早期開通を願う7月29～30日、ルート289フルコース踏破実行委員会の主催で、「第7回日本列島横断（洋から海へ）R289フルコース踏破」が行われ、町内の高校生26名が2日間にわたりタスキリレー方式で総延長約300キロを自転車で走破しました。

同実行委員会副会長の酒井正吉郎さんは出発式で「先日の報道で八十里越工事区間の



▲ R289 フルコース踏破に挑んだ町内の高校生と引率の皆さん（出発の様子）



▲ スタート地点のいわき市内を走行する高校生

完成目標が6年後と報じられた。その頃は皆さんも成人し、自分の車で通行できる時代になっているでしょう」と挨拶しました。

この踏破は、5人1組が1区間約10キロに区切られたコースをタスキリレーで繋ぐもので、初日はいわき市の勿

来の関を午前6時に出発し、難所の甲子峠や駒止峠を自転車で走破し、夕方に只見町の明和振興センターへ到着しました。2日目は早朝から只見町内を走り、八十里越工事区間内は車で移動。新潟県三条市経由でゴールの新潟県庁に午後5時頃に到着しました。

スタートからゴールまでの間、沿線の市町村長をはじめ、多くの住民の方々から声援を受け、事故なく無事ゴールすることができました。

③ 八十里越通り抜けツアー

只見振興センターでは、国道289号八十里越工事区間を越えて三条市へ抜ける「八十里越通り抜けツアー」を開催しています。このツアーは工事区間の視察だけでなく新潟県側の観光などを行い、開通後の利便性や効果について体感していただくものとなっています。

今年度は、既に「寺泊コース」や「弥彦コース」を実施し、今後は9月16～17日の1泊2日のコースと、10月8日の三条市日帰り満喫コースが予定されています。

④ 只見小学校の海洋教育

6月18日、只見小学校の海洋教育としての見学学習「八十里を越えて海へ」が、国道289号八十里越工事区間を通り抜け、新潟県の寺泊で行われました。この見学学習は、只見小の海洋教育「海とつながる只見町」の一環で、八十里越の工事区間や古道を見学後、日本海にある寺泊の海で地引き網体験など海に親しむ活動を行い、海とのつながりを学習しました。

⑤ 地域間交流を図る事業

このように開通を控えた国道289号八十里越は、学校教育にも活用されています。

国道289号八十里越区間の開通を見据え、只見町商工会と三条市の下田商工会（旧下田村）では様々な地域間交流事業が行われています。

毎年互いの地域を訪れ交流を深める「下田・只見町商工会八十里越交流事業」では、三条市・只見町の産業や観光の振興に向け、視察や交流懇談会などを開催しています。今年度は、10月18～19日の2日間、只見町を会場に行われ



▲ (写真/ヤマサ商店) 多くの方々から応援をいただきました



▲叶津地区で沿道から大きな声援を受ける生徒



▲ゴールの新潟県庁に到着した生徒



▲八十里越工事区間で説明を受ける只見小学生



▲八十里越通り抜けツアー

る予定です。

また、今年度からの新規事業として、三条市が誇る一大イベント「三条マルシェ」と只見町の一大イベント「水の郷うまいもんまつり」を繋ぎ八十里越区間を行き来するシャトルバスが運行されます。これは、地域間交流の促進を図り、八十里越区間の現状と開通後の効果や利便性を利用者に体感していただくという試みで初めて企画され、実施日は10月1日を予定しています。

— 開通後の未来 —

このように国道289号八十里越工事区間は、開通目標も示され開通までのカウントダウンが始まりました。これに伴い、只見町や三条市では活発な交流事業が年々多く開催されるなど、早期開通が期待されています。

開通後は、只見町・三条市間は約1時間20分で結ばれることとなり、三条市も会津若松市と同様に日常生活圏として、利便性が高まります。

さらに、開通によって只見

町の救急医療体制の充実が期待されています。現在、重篤な患者の救急搬送先は会津若松市内の病院が中心で、1時間30分程度を要しています。八十里越を通り抜け三条市の県央基幹病院に搬送する場合は、約50分で到着することができます。別名「命の道」とも呼ばれ、開通後の救命救急体制の向上も期待されています。

また、只見町の(株)会津工場と三条市内の企業では、既に企業間連携を行っており、開通後は更なる連携が期待されます。

観光面でも、新潟空港や上越新幹線燕三条駅へのアクセスが容易となり、新しい人の流れや観光資源の活用などにより、交流人口の拡大が期待されます。

今後、只見町や三条市では更なる連携を深め、開通後に向けた取り組みを計画し、両市町の連携を更に強化しながら推進していく予定です。



▲今年成人を迎えた41名の皆さん

祝 平成29年度 只見町成人式

成人証書を手にも、喜びと感謝

8月15日、季の郷湯ら里で「平成29年度只見町成人式」が行われ、山村留学生5名を含めた41名の新成人が出席し、新成人としての第一歩を踏み出しました。

式典では、菅家町長が「只見町にとつて皆さんは大切な宝です。それぞれの立場で只見町の力となってください」と式辞を述べ、続いて行われた成人証書授与では、新成人から家族へ宛てた感謝のメッセージが読み上げられる中、菅家町長から新成人一人ひとりに成人証書が手渡されました。また来賓祝辞では、星公正県議会議員や齋藤邦夫町議会議長から新成人へ励ましの言葉が送られました。

さらに式典の中で、我が子に宛てた家族からの手紙が渡されると、新成人の皆さんは真剣なまなざしで読みはじめ、目頭をおさえる姿がみら

れるなど、改めて家族に対する感謝の気持ちにあふれていました。

式典の最後には新成人を代表して島谷拓実さん（黒沢）が「成人を迎える不安もありますが、皆さまからの言葉を胸に刻み、精一杯努力していきます」と堂々と謝辞を述べ、来賓の方々からは大きな拍手が贈られました。

そして、成人式の第2部として行われた東京大学教授の目黒公郎さん（只見町福井出身）による特別講演会では、新成人へ向けた熱いメッセージが贈られ、講演会終了後には、「18歳の酒」プロジェクトで造られた日本酒が新成人へ贈呈されました。

新成人41名は、多くの方々からお祝いの言葉を受け取り、感謝の気持ちを胸に、自らの夢や希望の実現に向け、力強く歩みはじめました。



▲代表で謝辞を述べる島谷拓実さん



▲家族の思いが込められた手紙を読む新成人



▲一人ひとりに手渡された成人証書

「18歳の酒」贈呈！



▲酒を受け取る齋藤優輝さん（左）と渡部萌生さん（右）

「18歳の酒」とは、高校3年生の時に米づくりから酒づくりまで体験して造ったお酒を2年間貯蔵し、成人式でプレゼントするもので、酒造関係者と地元農家が共同で実施しています。

記念講演会「先輩からのメッセージ」



東京大学 教授
目黒公郎さん（福井出身）

講演会では「成人を迎える郷土の後輩諸君へのエール」と題し、目黒教授が研究する地震や防災などの講話の中で、学生時代に味わった挫折や苦勞について語られ、「始めることに遅すぎることはない」と多くの経験を積んで欲しいとエールをおくりました。

新成人の夢と感謝の言葉



鈴木 菜乃香さん

離れて気づくことが沢山あります。いつもありがとうございます。お店頑張ってください。



一条 英昭さん

たくさんの人に支えられて成長しました。次は自分が次の世代に同じように返していきます。もっと良い町になるように…。



新國 優さん

只見町は大好きな自慢の故郷です。お父さん、お母さん、いつもいつもありがとうございます！感謝しています！



八久保 哲平さん

私は必ず只見に帰り、親孝行します。それだけです。今まで育ててくれてありがとうございます。これからもよろしく。



大竹 羽未さん

たくさん思い出をありがとう、只見町。立派な医療人になって、恩返しができるように頑張ります。

沼ノ平総合学術調査を開始！

今年度より只見町は浅草岳の北東部に位置する「沼ノ平」の総合学術調査を開始しました。沼ノ平の自然環境、生物相および生態系について調査し、得られた情報をもとに今後の沼ノ平の管理（保護・保全・利用）方針について検討することを目的に実施していきます。

沼ノ平総合学術調査に

取り組む背景

只見ユネスコエコパーク域内にある沼ノ平は、地滑り地帯に位置し、多くの湖沼が存在するとともに成熟したブナ林が発達しています。また、自然度の高い環境にあることや地滑り地帯と

いう不安定で特殊な立地環境であることから、そうした環境に依存した特異な生物が生息、生育している報告があります。従って、沼ノ平は只見ユネスコエコパークの自然環境・生物多様性を保護・保全する上で重要な地域と考えられます。しかし、これまで沼ノ平で総合的な学術調査は実施されておらず、その自然環境、生物相および生態系の実態は十分に把握されていません。

また、現在の沼ノ平は自然公園法による「越後三山只見国定公園」の第1種特別地域と関東森林管理局により「レクリエーションの森」の指定を受けています。しかし、後者については制度

の見直しに伴い、今後は森林生態系保護地域の保全利用地区へ編入されることが計画され、その取扱いが変わる見込みとなっています。

一方、沼ノ平は大雨などの影響により土石流や崖崩れ、地すべりの発生が恐れがある「山地災害危険地区」に指定されています。実際に、平成23年新潟・福島豪雨の際は大規模な土石流が発生しています。只見町は会津森林管理署南会津支署との契約により沼ノ平内を通る登山道を利用していますが、こうした災害の発生により登山道利用者の安全面が懸念されるため、現在、登山道の利用は制限（ガイド付きのみでの利用）が設けられています。

こうした状況の中で、ユネスコエコパーク登録地域として、今後の沼ノ平の自然環境・生物多様性の保護・保全とその持続可能な利用を図り、最も適切な管理を検討・実施することを目的に、その根拠となる沼ノ平の自然環境、生物相および生態系に関する科学的な知見を得るため、今回の総合的な学術調査を実施するものです。

調査の実施体制と調査項目

調査期間は4年間（平成29～32年）とし、次の項目の調査を実施すること



▲地滑り地帯にある沼ノ平は、新潟・福島豪雨により発生した土石流でいくつかの湖沼が消失した一方で、こうした攪乱により貴重な自然環境や生物多様性が保たれている可能性があります

を予定しています。

- ① 自然環境（地形、地質、気象、地史、水質など）
- ② 生物相（植物、哺乳類、鳥類、昆虫類、両生類、爬虫類など）
- ③ 生態系（森林、河川・湖沼、湿地など）

調査の実施にあたっては、新潟大学農学部教授の崎尾均氏を調査団長とした沼ノ平総合学術調査団が組織され、各分野の専門家や研究者が調査を実施し、調査結果を報告します。事務局は只見町役場総合政策課地域振興係となります。

また、調査結果の報告会の開催を年度ごとに予定しています。



▲7月下旬～8月上旬に実施された植物調査の様子

イギリスの品評会で「シルバーメダル」受賞

米焼酎「ねっか」が快挙！

7月26日、酒類の国際品評会「インターナショナル・ワイン&スピリッツ・コンペティション（IWSC）」の焼酎部門で、米焼酎「ねっか」がシルバーメダルという快挙を成し遂げ、8月9日に合同会社「ねっか」の方々が菅家町長を訪れ、受賞報告を行いました。

世界三大酒類のコンペティションの一つに挙げられる今回のIWSCは、1969年からイギリスで開かれている世界で最も歴史ある国際的な酒の品評会です。選考には、世界中



▲受賞報告に喜ぶ菅家町長(中)と受賞証明書を手にする脇坂代表(右)と目黒大輔さん(左)



▲シルバーメダルに輝いた米焼酎ねっか

から集まった著名な審査員200名によるブライインド・テイステイングによる1次審査と化学的な分析による2次審査で決定されます。今回の焼酎部門には、日本や韓国を中心に数多くの出品がありました。その中から約80点が入賞し、米焼酎「ねっか」は、見事に製造開始から約半年でシルバーメダルに輝きました。

受賞報告では、菅家町長が「日本国内の大会を飛び越え、世界の舞台で受賞したことはとても素晴らしい」と挨拶したのに対して、「ねっか」の脇坂齊弘代表は「全て只見町産で作った焼酎が選ばれたことは大変うれしい。今後もゴールドメダルを目指しておいしい焼酎をつくっていきたい」と抱負を述べられました。

今後、11月15日にイギリスのロンドンで受賞式が行われる予定です。

「ただみ豪雪林業体験・観察の森」整備事業
森林整備ボランティア活動を実施

7月28日、黒谷区の「ただみ豪雪林業体験・観察の森」（以下、体験の森）で森林整備ボランティア活動が行われました。

この体験の森は、ユネスコエコパーク関連事業の一環として、只見町のような豪雪地帯に適応した森林管理技術の開発とその普及、そして体験することを目的として設置されています。体験の森を活用して、豪雪地帯に適した人工林の整備や豪雪地帯林業の体験、森林レクリエーション



▲参加された野村総合研究所グループ社員の方々と町民ボランティアの方々

ン、環境教育などの事業を行っています。

今回の森林整備ボランティア活動では、体験の森内のスギ人工林において、植栽されたスギのうち将来の成長の見込みがない不良形質木をノコギリで伐り倒す除間伐作業や伐採したスギの枝を落とし作業道に運び出す活動を行いました。

当日は本事業の目的に賛同、資金協力をいただいている野村総合研究所グループ社員の方々29名と町民ボランティアの方々7名が参加し、只見町森林組合の指導のもと、森林管理や林業作業の一端を体感いただきました。



▲除間伐作業を行う参加者

雇用創出や企業間連携を強化

誘致企業雇用対策意見交換会

8月2日、観光商工課が主催する「誘致企業雇用対策意見交換会」が季の郷湯ら里で開かれ、町内の誘致企業や商工会、県や町関係者15名が出席しました。この会では、企業が抱える「人材不足の問題」について協議され、各企業では人材不足を補うために、製造ラインの一部を外注していることや、町外からのU・Iターンによる人材確保の中で、Iターン向けの住宅が不足し雇用で苦労している現状などが説明されました。今後同会を継続し、「町総合戦略」に基づいた雇用促進のための住宅対策や雇用創出のための企業間連携を図る予定です。



▲町内の(株)会津工場、ティーエヌアイ工業(株)、(株)ヒロタテクノ、(有)セイワ電子などが参加した意見交換会

ふるさと交流都市の絆を深める

2017「柏おどりコンテスト」

7月29日、只見町とふるさと交流都市である千葉県柏市において「2017 柏まつり・柏おどりコンテスト」が開催され、出場した只見町チームが見事「友好賞」に輝きました。

今年の只見町チームは、町民の方々をはじめ、只見高校生や地域おこし協力隊など21名が集まり、本番まで練習を重ねてきました。JR柏駅前広場で行われた本番では、只見町チームは華麗な踊りを披露し、結果「友好賞」に選ばれました。

今年も柏まつりに参加し、柏市との友好を深めることができました。



▲多くの観客の前で華麗な踊りを披露した只見町チーム

重要文化財の歴史的価値を学ぶ

「旧五十嵐家住宅」修理現場見学会

7月29日、教育委員会が主催する「国の重要文化財・旧五十嵐家住宅」の保存修理工事現場見学会が開かれ、町内外から約30名が参加しました。

この見学会は、10〜15年に一度行われる修理工事をおとして、旧五十嵐家住宅の歴史的価値を広めようと開かれたものです。見学会では、茅葺屋根の葺き方や住宅内の修理現場などを見学しながら、旧五十嵐家住宅や修理の概要が説明されました。

参加者は、保存修理に携わる職人の技術や工法を学び、旧五十嵐家住宅が示す歴史的価値への理解を深めることができました。



▲茅葺の葺き替え工事現場を見学する参加者の皆さん

平成28年度の個人県民税で

只見町が県知事より感謝状

8月10日、役場本庁において個人県民税優良町村に対する知事感謝状の贈呈式が行われ、只見町が表彰を受けました。これは、平成28年度における町の個人県民税が徴収率99・8%と優良だったことから表彰されたものです。平成27年度まで続いた4年連続完納は今回途切れる結果でしたが、高い徴収率が認められました。

贈呈式では、大谷英明南会津地方振興局長から菅家町長へ感謝状が伝達され、大谷局長は「町民の納税意識の高さを感じる。今後もお願いしたい」と述べられ、菅家町長は「完納を目指して努力します」と話しました。



▲感謝状を伝達した大谷振興局長(左)と感謝状を手にする菅家町長(右)

J Aと行政が合同セールス
「会津の夏まつりin江戸」開催



▲多くの来場者の前でトップセールスを行った「会津の夏まつり」

8月3日、J A会津よつばと会津全17市町村が合同でトップセールスを行う「会津の夏まつり」が東京都江東区のホテルで開催され、只見町から菅家町長が参加しました。

これは、J Aと行政が一丸となり「会津ブランド」の農畜産物をPRするもので、会場に集まった首都圏の市場担当者やバイヤーなどに売り込みや販路拡大を図りました。

8月4日は、足立区のイトーヨーカドー西新井店で「会津夏まつり」が行われ、オープニングセレモニーや物産展などで会津の魅力を発信し、イベントは6日まで開催されました。

亀岡地区のビーチバレーコート
ビーチバレー教室を開催



▲ビーチバレーを体験する参加者

8月11日、NPO法人ただみコミュニティクラブが主催するビーチバレー教室「スタートアップビーチバレー2017 in 只見」が亀岡多目的活性化広場のビーチバレーコートで開かれ、町内外から約60名が参加しました。

国内のトップ選手を講師に招いた教室では、小学生から大人を対象に実技指導や交流試合が行われ、参加者はトップ選手の実力を肌で感じていました。

この教室は7〜9月まで計3回開催されており、町内でのビーチバレー競技の普及などを目指し、今後は合宿の誘致なども推進していく予定です。

小学生が英語でミュージカル
「はだかの王様」を披露



▲英語のセリフと歌で新たに創作した英語ミュージカル「はだかの王様」

8月11日、教育委員会主催の英語ミュージカル「はだかの王様」が只見振興センターで開かれ、約100名が来場しました。これは、小学校が2020年から英語教科が始まることなどを受け、英語に親しむ機会を増やそうと企画されたものです。講師には元ブロードウェイ歌手のクリストファー・レベンス氏と、シナリオや歌を書き起こすミキ・マスタグ氏を迎え、町内の小学生13名が出演しました。

本番では小学生13名が素晴らしい演技を披露し、会場からは大きな拍手が贈られました。

南会津郡PTA連合会研究大会
只見小が主幹「自然首都只見大会」



▲「思春期の子どもと向き合うために」をテーマに講話する桜の聖母短期大学の西内みなみ学長

7月30日、第41回郡PTA連合会研究大会「自然首都只見大会」が季の郷湯ら里で開かれ、郡内の小中学校の関係者や保護者など約300名が参加しました。今大会は、只見小学校PTAが主幹で「新時代を担う子どもたちに豊かな心と生きる力を育むPTA活動」をテーマに開催し、研究協議や記念講演会を行いました。

開会式では、只見小PTA会長の新國伸一さんが「学校・家庭・地域が連携したPTA活動が重要です」と挨拶し、わが家の「ふれあい訓」表彰では、只見小1年の五十嵐千紘さんなどが優秀賞を受賞しました。

只見・明和で恒例の盆踊り大会、朝日盆フェス新たに 各地区で盆イベント賑わう！

8月14～15日、各地区で盆踊りなどが開催され、多くの帰省客とともに賑わいをみせました。

朝日地区では、「朝日『盆』フェス」が初開催され、ステージではカラオケ大会やライブ、仮装大会の催しの他、会場では多くの出店が並び、来場者は多彩な催しと食を楽しみました。

また、只見・明和地区の盆踊りでは、花火大会や仮装をした子どもたちが、盆の夜を彩りました。



▲只見地区盆踊りのおはやし(8月14～15日開催)



▲朝日盆フェスのライブ演奏(8月15日開催)



▲明和地区盆踊りで仮装した子どもたち(8月15日開催)



▲墓前で手をあわせる菅家町長

長岡藩の家老・河井継之助を偲ぶ… その壱「河井継之助墓前祭」

8月16日、塩沢地区の医王寺で河井継之助墓前祭が執り行われ、新潟県長岡市や只見町の関係者が出席しました。主催者である塩沢地区観光協会の田村勝男会長は「来年は没後150周年を迎える。今後も皆さまのご支援をお願いしたい」と挨拶し、菅家町長が追悼の言葉を述べました。参加者の焼香が行われた後、前田剣豪会の皆さんによる剣舞が披露され、全員で河井継之助を偲びました。

その弐「河井継之助を語る会」

同日、河井継之助墓前祭の後に第1回「河井継之助を語る会」が塩沢集会施設で開かれ52名が参加しました。語る会では、参加者が河井継之助や戊辰戦争、只見や長岡などに対する思いを発表し、みんなで語り合いました。語る会は今後も継続して開催していく予定です。



▲河井継之助を語る会代表の目黒良樹さん

会津只見考古館 開館25周年記念まつりを開催

8月11日、会津只見考古館の開館25周年を記念した「会津只見考古館まつり」が同館で開かれ、夏休み中の子どもたちなどで賑わいました。

無料開放された会場では、^{まがたま}勾玉づくりや火おこし体験、糸つむぎ・木柀織り体験などが行われた他、つる細工や小物、南郷トマトなどの販売が行われました。

子どもたちは、先人の知恵を学びながら体験を楽しんでいました。



▲火おこしを体験する子どもたち

福島大学生などが小・中学生に学習指導 「サマースクール」開講！

8月21～24日までの4日間、小・中学生を対象にした学習塾「サマースクール」が各振興センターで開かれ、小・中学生59名が参加しました。福島大学で教師を目指す大学1～3年生12名と只見高校生4名が講師を務め、参加した子どもたちに熱心に学習指導を行いました。指導を受けた子どもたちからは「苦手だった計算ができるようになった」などの声が聞かれ、大学生の皆さんも「実践的な教育の場として大変勉強になります」と話していました。



▲(写真/明和振興センターで授業を受ける児童)講師を務めた福大生の中には只見出身者もいました

明和地区の恒例行事 「お盆帰省者歓迎野球大会」開催

8月16日、明和地区恒例の「お盆帰省者歓迎野球大会」が明和小と只見中のグラウンドを会場に開かれ、明和全集落から6チームが参加し優勝を争いました。

熱戦が繰り広げられた大会は、小林チームと坂田チームによる決勝戦が行われ、見事小林チームが優勝しました。

大会終了後には慰労会が各チームで行われ、帰省者との親睦を深めていました。



▲多くの帰省者が参加した野球大会

季の郷湯ら里で夏休み特別企画 「ミニ四駆特設コーナー」で賑わう

7月21日～8月2日までの13日間、季の郷湯ら里の夏休み特別企画「ミニ四駆特設コース」が同施設ロビーに設置され、賑わいを見せました。このコースは、ミニ四駆をはじめ可動模型やプラモデルなどを製造販売する(株)タミヤからレンタルしたもので、無料開放されたコースでは、宿泊客や町内外の方々など多くの方が利用しました。夏休み期間ということもあり、親子連れで楽しむ姿も見られました。



▲ミニ四駆を走らせる子どもたち

8月から新しい看護師さんが着任しました!

8月1日から11月30日まで朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師の片岡夏美さんです。片岡さんは中学生のときに祖母の病気がきっかけで看護師を目指しました。趣味は音楽で、特にロックが好きという片岡さんは、よく音楽フェス(祭典)巡りをしています。朝日診療所では、多くの患者さんとコミュニケーションを図りながら、採血や点滴を学びたいそうです。「精一杯、笑顔で頑張るので見かけたら声をかけてほしい」と話す片岡さんをどうぞ宜しくお願いいたします。



かたおか なつみ
片岡 夏美さん
(出身/会津坂下町)

広報ただみ診療所

朝日診療所

所長 若山 隆



「高齢者の運転免許」

皆さんこんにちは。診療所所長の若山です。7月から始まった火曜夕方外来も無事継続できております。ご都合が合う方は、ぜひご利用ご検討ください!

今回は高齢者の運転免許更新のお話をします。2017年3月に道路交通法が改定され、75歳以上の高齢者の運転免許更新に関しては大幅な変更がありました。75歳以上の方が運転免許の更新を行う際には、認知機能検査(講習予備検査)を受ける必要があります。対象の方は運転免許更新の6か月前までに自宅に通知が届くようです。教習所などで30分間の検査を受け、結果は①記憶力・判断力が低くなっている②記憶力・判断力が少し低くなっている③記憶力・判断力に心配ありませんの3種類があります。このとき、①の一番悪い結果であった方は、医師の診断書(認知症に関して)が必要になってきます。運転免許更新時でなくても、特定の違反行為があった場合、臨時的認知機能検査が同様に行われ、結果によっては診断書が必要になることがあります。朝日診療所でも、運転

免許更新時の診断書作成の対応は行っています。しかし、認知症の診断は年相応の物忘れとの境界があいまいで非常に難しいです。定期的な通院のない方や、診断に困る場合などは専門医での相談を勧めさせていただく場合もあります。無事に認知症でないと診断できる場合はよいのですが、実際に相談に来られる方では、認知症の疑いがぬぐい切れない場合がほとんどで、その際は半年後の再検査が必要になってきます。もしも認知症と診断され、その診断書を提出してしまうと、運転免許停止・取り消し処分となってしまいます。そのようになる前に、運転免許自主返納をお勧めします。免許の自主返納をすると、各自治体で特典があります。只見町では雪んこタクシー券100枚という特典がもらえます。

どんな方でも、いつかは運転できなくなる日がきます。大きな事故を起こしてからでは遅いので、早めに対策を立てるようにしましょう。

地域おこし協力隊として 只見町教育振興協力隊

vol.34

みねぎし つとむ
峯岸 努



「降ってくる」もの

最初に引っ越し荷物を運んできたときには「雪」が降っていました。夜、帰宅して空を見上げると、北斗七星のわきを流れ星が流れていき、まさしく「星降る夜」です。洗濯物を干そうと意気込んだら、「雨」が降ってきました。空梅雨と言われ、国道の電光掲示に「水がピンチ!節水を!」と赤字で表示されていたことがウソのようです。稲妻で目が覚め、雷鳴で眠れない夜もあります。ある日、夕方薄暮のころ、目の前に黒いものが「降って」きました。足元へ目を移すまでの間、頭の中では色々な考えが巡り

ます。雨は、降る。雪も降るけど今は季節ではない。星が降るのは比喩であって、本当に星が降ってきたら、それは隕石か天体衝突で、こんなに余裕があるはずはない。ネズミは家で見たけど、あれは横移動だ…。意を決して足元を見ると、立派なノコギリクワガタでした。翌日の朝、別の場所でカブトムシがのんびりと歩いていました。これも降ってきたのでしょうか。東京では、レジ袋、時には高所作業用の足場が降ってきたりして、命に関わります。「自然が豊か」を生活実感で感じる只見での毎日です。

町史

とっておきの話

278

只見町文化財調査委員会議長

飯塚 恒夫

いま残しておきたい只見とっておきの話 ⑤

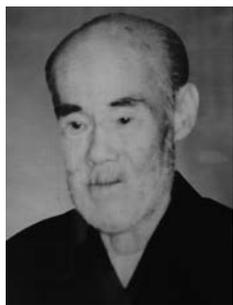
河井継之助を守り継いだ矢沢家の人々

塩沢の河井継之助記念館には、河井継之助が息をひきとった終焉の間が当時のまま残されています。慶応四年（一八六八）八月十二日、継之助は只見から若松に向かって出発、途中塩沢の医師矢沢宗益宅に投宿します。重症の身で若松へ発つことがかなわず、八月十六日矢沢家の一室で生涯を閉じました。

この当時の矢沢家の家族状況を見てみると、医師宗益（六五歳）と妻キサ（五二歳）は健在ですが、長男の宗順（医師）の存在は不明で、死亡しているとも考えられます。宗順の長男宗篤（一七歳）は医師の修行中で、ここに宗益の次男新角（二八歳）が同居しており四人家族だったようです。新角は宗篤が若いため、その後見役であったと思われます。『明治備忘録』（塩沢・岩瀬家文書）に、「御家老河井継之助殿手負ニテ当地山崎矢沢

新角方御滞在中死亡セラル」とあります。この記述から宗益が隠居の身であり、新角は戸主役の立場で、長岡藩の大殿牧野忠恭の休憩の折や継之助滞在中における諸々の対応にあたっていたことが伺われます。

その後、宗篤は祖父宗益・父宗順の跡を継ぎ、馬場順誠（旧南郷村下山）や佐藤寛斎（長岡藩）に医学を学び医師として地域に貢献しています。長女アサイに金山町滝沢から渡部久吾を養子に迎え、その長男が伊織であり、さらにその長男が大二となります。



▲河井継之助終焉の家の保存に尽力した矢沢伊織

大正六年は、河井継之助の五十年忌に当たります。それを記念して宗篤は河井継之助の建碑を計画、大正四年十二月、自ら発起人となって運動をはじめます。しかしこの計画は実現することなく、宗篤は昭和十一年十月に亡くなります。宗篤の思いは、久吾と伊織親子に引き継がれ、昭和十二年の継之助七十年忌の記念事業として、矢沢家の庭に「河井継之助君終焉之地」の碑が建立され、盛大な除幕式が行われました。

昭和三十七年、滝ダム建設によって、塩沢集落のほとんどが水没対象となりました。その時の当主であった伊織が、宗益以来四代にわたって守ってきた「河井継之助終焉の家」を自分の代でなくしては先祖に申し訳ないという気持ちが強かったと語られたのを筆者は記憶しています。伊織は記念碑とともに家

屋全部を移転保存するための補償を、電源開発株式会社再三にわたって求めましたが、家の歴史的な価値は認められませんでした。結局、記念碑のみを補償対象とし、矢沢家の所有物としては認められず、町が補償の当事者となって記念碑の移転がすすめられたのです。伊織は止むなく全家屋の移転を諦め、終焉の間のみを切り離して、移転先の新築住宅に接続させて移築保存したのです。その後、伊織の長男大二が跡を継ぎ、終焉の間に継之助関係の収集品や医師の道具類を展示し一般に公開していました。

町では昭和四十一年、矢沢家に隣接する高台に土地を造成し、記念碑を移転して小さな記念館を建てますが、準備に時間を要し、昭和四十七年ようやく「河井記念館」がオープンしました。しかし「終焉の間」は矢沢家にあり、見学者にとつては不便な状態でした。平成三年、矢沢家の好意により、土地家屋の一切が町に移管されて、平成五年に現在の「河井継之助記念館」が建設されます。もとの記念館は「山塩記念館」となり、



▲水没前の矢沢家

二つの歴史観光施設ができあがったのです。

只見川電源開発当時、伊織氏の熱意と英断がなければ、終焉の家は残っておらず、湖底に沈む運命でした。現在の河井継之助記念館が只見町にあるのは、矢沢家が五代にわたって守り受け継いできた熱い思いがあったからこそといえます。

町民文芸



只見短歌会 七月詠草

透析に慣れたる夫が早起きし持ちゆく紫陽花選び切りみつ
古川 英子

若き等に従ひて来し避難所で老いら寄り添ひ炊き出し頂く
馬場 八智

暑き日に一陣の風吹きてきつどこかで激しき雨の降るらし
小倉 キミ子

離れ住む独り暮らしの姉からの用事の電話もついぞ長引く
関谷 登美子

只見富士窓を額にしそれぞれの色を替へて四季は移らふ
新国 由紀子

幼子が摘みたる花を愛しみ水をやる都度顔が綻ぶ
目黒 富子

病む夫の若き日の友訪ね来てわづか十日余計報の届く
渡部 ゆき子

テレビ見て声出し笑ふ孫見れば厨に立ちゐる我が手止まるも
渡部 ヨリ子

車椅子にひ孫を乗せてりハビリと家うち歩く笑はせながら
新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会 八月例会

知りたくて知られたくないサングラス
十年も過ぎてうるさき冷蔵庫
都

盆唄や小さき輪となり過疎の町
若き日も今もこの道合歡の花
弘子

もう少し登る途中の蟬の殻
立秋の朝戸の風の入りけり
恒夫

つんつんと刈葱の伸びし朝かな
かかえたる胸に西瓜の日の温み
礼

短夜やみじかく聞ゆ三味の音
日に三度シャワーを浴びて又シャワー
穂

盆過ぎし村の灯りの元通り
レジ横の西瓜安売り悩み過ぐ
修一

野佛の傍に勿忘草の花
夏休みピザ焼く窯の煙立つ
敦子

待ちきれず新じゃが探る畝温し
この固き大地を穿つ薯の丈
さちを

亡き人のセピアの写真蟬しぐれ
夏雲や敗戦投手の涙かな
信



今月の お知らせ

電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎82-5210
総合政策課	
地域振興係 広報広聴係	☎82-5220
町民生活課	
税務係	☎82-5110
町民係	☎82-5100
保健福祉課	
保健係	☎84-7005
福祉係	☎84-7010
農林振興課	
農政係 林政係	☎82-5230
観光商工課	
観光係 商工係	☎82-5240
環境整備課	
地域整備係	☎82-5270
生活環境係	☎82-5280
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

お知らせ

消費税の軽減税率制度に関する説明会の開催

田島税務署および只見町では、事業者の方を対象に消費税の軽減税率制度に関する説明会を次のとおり開催します。

●日時 9月26日(火)
10時～11時30分
13時30分～15時

●場所 朝日振興センター
2階ホール

●定員 各150名
※説明は、午前・午後いずれも同じ内容です。席に限りがあります。

※説明会終了後、簡単なアンケートを実施しますので、筆記用具をご持参ください。
※会場の駐車台数に限りがある

税 今月の納期

9月25日までに
納めましょう

- 国民健康保険税(3期)
- 水道使用料(2期)
- 農集排使用料(9月分)
- 介護保険料(3期)
- 後期高齢者保険料(2期)

只見おもしろ学クイズ

今回の只見おもしろ学クイズは、八十里越に関する問題です。

〈問題〉

戊辰戦争時、左足を負傷し八十里を越えて会津若松へ向かう途中、只見町の塩沢で亡くなった長岡藩家老は誰ですか？

- ① 山本 帯刀
- ② 牧野 忠恭
- ③ 河井 継之助

(答えは19ページです)



フナリン

10月の強化月間 「不正軽油撲滅」について

●問合せ先
▽田島税務署 調査部門
☎0241(62)1230
※音声案内に従い「2」を選択してください。

県では、10月を「不正軽油撲滅強化月間」と定め、関係団体と協力して、不正軽油の排除に取り組んでおります。軽油に課税される軽油取引税を脱税する目的で、軽油に灯油や重油を混ぜるなどして製造される燃料、いわゆる「不正軽油」が正常な軽油と偽って販売・使用されている事例があります。

この不正軽油は、悪質な脱税行為であり、環境汚染や不法投棄の問題のほか、公正な

10月の強化週間 「公証週間」について

●問合せ先
▽県庁総務部税務課
☎024(521)7205
☎024(521)7905
▽南会津地方振興局県税部
☎0241(62)5214
☎0241(62)5219

市場競争の阻害、更には暴力団等の資金源にもつながります。「不正軽油を作らない・売らない・買わない・使わない」不正軽油の防止・撲滅には、県民の皆様のご協力と情報提供が欠かせません。不正軽油の情報提供につきましては、次のお問合せ先までご連絡ください。

10月1日から7日は「公証週間」です。公証制度は、公証人が大切な遺言や契約の公正証書の作成、確定日付の付与、定款や私文書の認証など、国の公証に關

する事務を取り扱う制度です。公正証書に書かれている内容は、裁判その他の面で、高い証拠力が与えられます。また、公正証書には「執行力」があり、金銭に関する契約で相手が約束に反して金銭の支払いをしなかった場合、裁判抜きで相手の財産に対し強制執行ができます。遺産相続、任意後見契約、金銭貸借、不動産貸借、離婚に際しての慰謝料、養育費などの問題は、後々にもめごとを引き起こしがちです。そんなとき遺言や当事者間の取り決めに公正証書にしておけば、トラブルを防止し、権利や財産を守ることができま

●問合せ先
▽会津若松公証役場
☎0242(37)1955

相談は無料ですので、お気軽にご相談下さい。

只見駅開業54周年記念

只見駅開業記念イベントでお祝い!

8月20日、この日で開業54周年を迎える只見駅を記念して「只見駅54周年誕生日記念イベント」が只見駅前広場で開かれ、地域住民や沿線町村、只見線利用者などが参加しました。主催は只見町観光まちづくり協会で、会場には只見駅へのお祝いメッセージが書かれたボードが設置され、参加者全員でマトン焼きを囲んで只見駅の54周年を祝いました。途中、只見線や代行バスの運行時間になると、参加者は列車やバスに手を振り見送り、復旧が決まった只見線と只見駅への感謝の気持ちを贈りました。



▲只見駅開業54周年をお祝いした参加者の皆さん

会津田島・只見ツアーバスの利便性の向上を図る

会津田島駅に専用バス乗場を設置!

会津田島駅と只見駅を結ぶ「ツアーバス」の利便性の向上を図る目的で、会津田島駅のロータリーに専用バス乗場が設置されました。ご利用の際は、こちらのバス停でお待ち下さい。ツアーバスは完全予約制で、片道料金1,500円です。

☎只見町観光まちづくり協会

TEL0241-82-5250



はるま
鈴木 遥真くん
(小川)

虫歯の ない子



(8月1日
3歳児健診)

町長スケジュール

(8月分)

- | | |
|---|---|
| 1日 福島県治水協会・砂防協会役員会及び通常総会(福島市) | 15日 只見町成人式(季の郷湯ら里) |
| 2日 定例庁議、只見町誘致企業雇用対策意見交換会及び懇親会(季の郷湯ら里) | 16日 河井継之助墓前祭(塩沢医王寺)、河井継之助を語る会(塩沢集会所) |
| 3日 JA会津よつば・17市町村合同トップセールス(～4日東京都) | 17日 明和地区の当面の課題に関する町長との懇談会(明和振興センター) |
| 5日 南会津町役場新庁舎落成式及び祝賀会(南会津町)、沼沢湖水まつり(金山町) | 18日 臨時庁議 |
| 6日 頑張ろう東日本!つながれつながれ只見線歌と踊りのチャリティーショー(埼玉県八潮市) | 22日 国道289号建設期成同盟会県内要望会(新潟県) |
| 7日 日本ユネスコエコパークネットワーク大会(東京都) | 23日 只見町表彰審査委員会、9月補正予算町長査定 |
| 8日 只見町職員互助会理事会、南会津地方広域市町村圏組合管理者会、南会津地方環境衛生組合管理者会(南会津町) | 24日 只見町文化協会との懇談会 |
| 9日 (福)南陽会理事長来庁、(同)ねっか国際品評会銀賞受賞報告来庁、東北電力(柳田島営業所)来庁、自然首都・只見水の郷うまいもんまつり実行委員会(只見町商工会館) | 25日 議案検討庁議 |
| 10日 県道小林・笹ノ川線改良促進期成同盟会総会(季の郷湯ら里)、個人県民税優良町村に対する知事感謝状贈呈式、只見町災害対策本部会議、両沼地方管内町村長・只見川電源流域管内町村長情報交歓会(柳津町) | 27日 福祉の里夏まつり(保健福祉センター前庭広場) |
| | 28日 南会津地方環境衛生組合協議会定例会(下郷町)、南会津地方広域市町村圏組合協議会定例会、(福)南会津会理事会(南会津町) |
| | 29日 県道小林・笹ノ川線改良促進期成同盟会県要望、国道252号六十里越道路に係る要望活動(南会津町、福島市) |
| | 30日 道の駅「尾瀬檜枝岐」開所式(檜枝岐村)、一般質問検討庁議 |
| | 31日 南会津地方老人クラブ連合会大会・ニューリーダー研修会(季の郷湯ら里) |

町民の消息

(7月26日～8月25日届出分)敬称略

■お誕生おめでとうございます

湯田 誠^{まさき}月(男/誠史・千穂)坂田

■ご結婚おめでとうございます

金山町 齋藤 輝♡本名 麻美 黒谷

■おくやみ申し上げます

馬場 貢	64歳	蒲 生
馬場 スミ子	85歳	黒 谷
長谷川 啓子	66歳	只 見
馬場 マスミ	89歳	長 浜
五十嵐 勅	85歳	蒲 生
須佐 ナホ子	95歳	長 浜

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成29年8月1日現在

人口 4, 332 (－ 1)
 男 2, 132 (+ 3)
 女 2, 200 (－ 4)
 世帯数 1, 865 (－ 1)
 高齢化率 45. 29%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 6 転出 8 出生 4 死亡 3

あとがき

▽8月15日に取材した成人式では、新成人の晴れ姿を写真などに収めようと、会場には新成人の家族の姿が多く見られました。

▽成人式の中で特に印象的だったのが、家族からの手紙を読む新成人の姿です。手紙に目を向けると、それまで笑顔でいた新成人たちの空気が一変し、真剣なまなざしで読んでいました。中には、涙をこらえる姿や、天を仰ぐ姿が見られ、私もカメラ越しに感動してしまいました。

▽手紙には「願いを込めた名前の由来」「親子で歩んできた思い出」などが書かれていたそうで、親の愛情の深さを感じることができた成人式でした。

(三瓶)

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

町民憲章

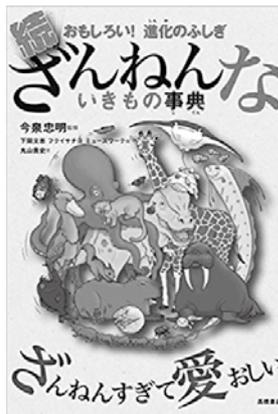
生涯学習推進員
三瓶美由紀

朝日振興センター
図書室☎84-2111

おすすめ新着図書

☆続 ざんねんないきもの事典

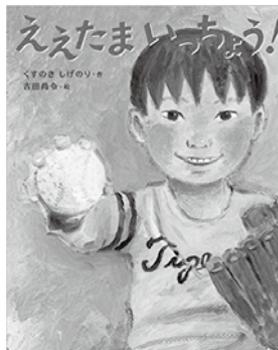
今泉 忠明 / 監修(高橋書店)



「ざんねんないきもの事典」の第2弾! 笑えてちょっとためになる、「ざんねん」な生きものの真実がたっぷり詰まった1冊。残念すぎて愛おしい、思わずつっこみたくなる生きものが続々です!

☆ええたまいっちょう

くすのきしげのり / 著(岩崎書店)



きょうもせんせいにおこられた。もうっ! あのかんかは、ぼくだけがわるいのとちがうのに。学校の帰り道、男の子は泥だらけのボールをひろって交番へむかった。おとうさんの言葉を思い出して…。男の子と若いおまわりさんの「心のキャッチボール」。信頼できる大人に出会った子どもの心の成長を描く感動の絵本。

★朝日振興センターではリクエストを随時受付しています。読んでみたい本があれば ぜひ、リクエストしてください。



只見おもしろ学の
答え合わせ!!

17ページクイズ答え
③河井継之助 だよ!!
詳しくはガイドブック
P142～143をみてね!

フナリン

オオシラヒゲソウ (学名: *Parnassia foliosa* var. *japonica*)

[ニシキギ科 ウメバチソウ属]



▲茎のつけ根にはハート形の葉が付く(根出葉)



▲花を上から見ると花弁が細かく裂けている様子が観察できる

オオシラヒゲソウは、秋田県から兵庫県の日本海側に分布し、山地の沢などの湿った岩の上に生育する多年性草本です。「シラヒゲソウ(白髭草)」という名は花弁が細かく裂けた様子がひげに似ていることが由来となっています。オオシラヒゲソウは、日本に広く分布するシラヒゲソウ(*P. foliosa* var. *foliosa*)よりも全体に大型であることから、この名前がつけられました。花期は8月～9月です。草丈は15～30cmと人のくるぶしほどの高さで、葉は心円形で茎を巻き込むように2～4枚付きます。また、茎の根本からでる葉(根出葉)はハート形をしています。福島県では会津地方西南部にのみ見ることができ、福島県のレッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)では将来の絶滅の危険性が極めて高い「絶滅危惧Ⅰ類」に分類されています。さらに、「福島県野生動植物の保護に関する条例」において“特定希少野生動植物”に指定され、原則として採取や損傷、譲受けが禁止されています。只見町では、オオシラヒゲソウのみが生育し、県内でも貴重な生育環境を提供しており、その個体群や生育地の保護・保全に努める必要があります。

企画展示

只見ユネスコエコパーク関連事業・只見自然環境基礎調査報告
「只見の湿原—その生態と歴史」

期間:11月20日(月)まで開催中

場所:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

プラセンター講座

「只見町の湿原—植生からみた多様性」

講師:菊地賢氏(森林総合研究所・主任研究員)

日時:9月23日(土・祝)13:30～15:30

場所:ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

詳しくは、
只見町プラセンター
までお問い合わせ
ください

自然観察会

「八十里越の化ケ物谷地に行こう！」(定員27名・事前予約制)

日時:9月24日(日)9:00～13:00

観察地:入叶津 化ケ物谷地(八十里越)

集合:ただみ・ブナと川のミュージアム(8:45集合)

参加費:1,000円(入館料、保険料、バス代を含む)